大衆日報

大衆日報社
発行責任者：[illegible]
銚子市春日町3218-1
電　話0479(25)0030
ＦＡＸ0479(25)1100
電子メール
taishunippo@wine.ocn.ne.jp
購読料１カ月1,800円
郵　送１カ月2,700円

地域貢献ありき ガラスリソーシング㈱

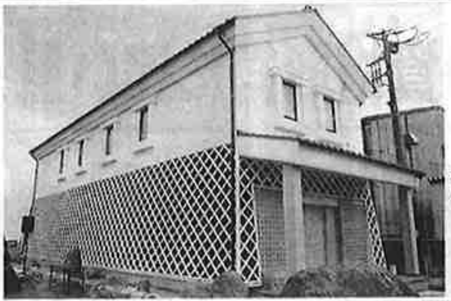
銚子警察署と災害時協定締結！

「やれることを全力で」と伊藤会長

同社保有・災害用備蓄倉庫"蔵（くら）"を拠点に

「地域の一人ひとりが災害という危機管理の中でやれることをやる。我々ガラスリソーシング㈱という企業も"人"ですから。東日本大震災を経験し、丸6年が経過。いろいろな面で模索しながら、これから先起こるかもしれない災害に備え、我々はもう一度原点に戻って何が大切か？何を支えていったらいいのか？という思いが実り締結式を迎えることができ、警察にいろいろな面で指導していただきながら歩んでまいります」

と感無量の面持ちであいさつするのはガラスリソーシング㈱（銚子市春日町740－1）の伊藤憲一会長だ。


ガラスリソーシング㈱が保有する災害用備蓄倉庫"蔵"。1階は食料や毛布などの備蓄スペース、2階は多目的ホール（避難スペース）となっている

銚子警察署とガラスリソーシング㈱の災害時協定締結を祝う関係者

ける防災備蓄物資の提供協力及び施設の
災害応急対策業務に関する協定締結式
林秀雄・銚子警察署長とガッチリ握手する伊藤憲一会長（右）と赤坂修社長

感謝いっぱいの林署長

同社は銚子警察署との間で『災害時における防災備蓄物資の提供協力・及び施設の使用・並びに災害応急対策業務に関する協定』の締結を8月29日(火)午後、同社の災害用備蓄倉庫"蔵(くら)"で挙行した。渡邉直人・銚子警察署警備課長の司会進行で始まった締結式では、まず、林秀雄・銚子警察署長と赤坂修・ガラスリソーシング㈱社長が協定書に署名捺印。林署長は、

「本日はガラスリソーシング㈱伊藤会長、赤坂社長には『災害時における防災備蓄物資の提供協力・及び施設の使用・並びに災害応急対策業務に関する協定書』を締結していただきありがとうございます」

と感謝を述べ、次のようにあいさつ。

▼林秀雄・銚子警察署長

昨今の災害状況でありますが、平成23年の東日本大震災以降、全国各地で大規模な災害が続いており、昨年は未曽有の災害をもたらした熊本地震、本年に入って九州北部を襲った記録的豪雨…と各地では自然災害によって死者・行方不明者多数という甚大な被害が出ているところであります。

幸い、銚子市においては大きな被害の発生はありませんが、三方を水に囲まれた銚子市では自然災害は今そこにある脅威であります。警察では災害対策の見直しを図っているところであり、今回伊藤会長から「災害発生時など銚子市民を守る警察業務を守る協力をしたい」という申し出があり、ガラスリソーシングの災害用備蓄倉庫"蔵"を拝見させていただいたところ、多くの防災備蓄物資が保管されており、その備蓄物資の提供の他、重機の運搬から応急対策まで行なっていただけること、さらに眼下に太平洋を広範囲に見渡せる危機管理棟まで使用させていただけることは、警察にとってこの上のない喜び。また、本日の締結は災害が発生した場合の市民生活への影響を最小限に止める最大の効果を発揮するものと考えます。

終わりに、ガラスリソーシング㈱の皆様とは、この締結を機に連携を一層密にしながら、対策を練っていきたいと思いますので今後ともよろしくお願いいたします。

長島謙・銚子市総務市民部長、吉原正巳・銚子市観光協会々長ら来賓の皆さん

その時、どう動く？

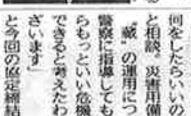
伊藤憲一・ガラスリソーシング㈱代表取締役会長は、

「昨年は3月に銚子市と災害協定を結び、1年間過ぎ考えたことは、本当に運用面をどうしたらいいのか？ということ。我々はこの防災蔵を建て、災害時に住民に提供する『備蓄』はやらせていただきましたが、運用をどうしたらいいのか？という面で非常に不安がありました」

と『その時、どう動く？今やるべきことをやり、未来への道へ』を社長として掲げる社長ならではの不安をまず語り、

「ある時、銚子警察署警備課の渡邉直人課長にお会いし、『災害の第一線に立つのは警察・消防・自衛隊という中、我々は何をしたらいいのか？』と相談。災害用備蓄倉庫"蔵"の運用について、警察に指導してもらったらもっといい危機管理ができると考えたわけでございます」

と今回の協定締結に至った経過を説明し、次のようにあいさつした。


災害時の企業としての地域貢献について熱く語る伊藤憲一会長

普段から警察とコミュニケーションを

▼伊藤憲一会長

渡邉警備課長に、

「ぜひ防災蔵をご覧いただきたい。足らないものは何か？地域にどういうふうに組織形態を作っていったらいいのかご指導いただきたい」

とお願いし、提案させていただきました。

普段から警察とコミュニケーションを持ちながら、災害時に対処する。我々市民が普段できる限りのことを警察や銚子市と共にやっていく必要がある。その指導を銚子警察署にやっていただき、次世代の人たちも学んでいければ一番いいと考え本日の締結に至ったわけです。

創業地に"高台"選んだのも運命！

伊藤会長の危機管理への熱い思い

警察が味方になることで「防災蔵の長所活かされる」と赤坂社長

赤坂修・ガラスリソーシング㈱代表取締役社長は、

「今日、締結に至ったのは、伊藤会長の心の中に7～8年前から危機管理への熱い思いがあり、少しずつ防災グッズや食べ物などを備蓄し、この蔵を建設しました。この蔵を市民のために効果的に運用することを目指して銚子警察署と協定を締結させていただくことになりました」

と語り、次のようにあいさつした。

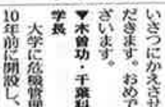
▼赤坂修社長

3・11東日本大震災や熊本地震の時に、市町村の初動動作での対策がうまくいくかどうかで被災の度合が決まることが分かりました。我々ガラスリソーシングには防災蔵がありますが、しかし我々だけではどうしようもない。日頃訓練をしている警察が味方についてくれることで、この防災蔵の長所が活かされるんです。

警察としても何かあった時に市民を守らなければならない。でも足りない部分があり、弊社・伊藤会長は地域への社会貢献ということで、災害時の初動対応を警察と協力の上、進めていこうということでなりました。災害はあってはいけないんですが、これからは地球温暖化や気象異常などが増えてくるので、こういう場所があることはいいのではないか。

一番最初に会社の場所をこの春日町に決定する時、伊藤会長がここを選んだ時点で、この高台を選んで創業したということが、危機管理に対する市民への貢献ということが運命的に決まっていたのではないかとしみじみ感じます。

今後も銚子警察署さんに指導していただき、防災に関してどんどんアドバイスをいただき、防災に関していろいろ揃えていきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。


「この高台の地に創業したことも、運命的なものだったのではないか」と語る赤坂修社長

信田県議、木曽学長、松岡理事長が祝辞

来賓を代表して千葉県議会環境生活警察常任委員の信田光保県議、危機管理学部を擁する千葉科学大学・木曽功学長、蔵建設から関わりの深い銚子信用金庫・松岡明夫理事長がそれぞれ次のように祝辞を述べた。

▼信田光保県議

ガラスリソーシング㈱と銚子警察署との災害時における防災全般に関する協定締結式、「企業として地域に貢献したい」という結果が今日形として現れ、これまでの取り組みに対して心から敬意を表します。

信田光保県議が祝辞

今日は朝6時前、北朝鮮のミサイルが北海道を経て太平洋に落下し、非常に衝撃的案件であります。日本の国防・危機管理というものを改めて考えさせられる朝の時間であります。東日本大震災から6年半が経過、先週26日には9都県市の防災訓練を匝瑳市で行ない、常日頃我々住民としても国・県としても、企業としても自助・共助・公助といわれる中、今日の協定締結は「共助の形をいかに具現化していくか」の現れではないか。昨年は防災蔵が備蓄という形の中でお披露目され、どう具体化するかということで常日頃、銚子市民の命と安全を守っていただいている銚子警察署をはじめ皆さんと相談しながら締結書をもとに地域の安全・安心を守っていく…企業としてのガラスリソーシングさんに重ね重ね敬意と感謝を表します。

どうかこの今日の締結式を経て、ますます市民そして銚子市、関係団体と連携しながら地域の安全・安心を作っていただければと思いますし、私自身も県の枠から皆様とともに安全・安心のために活動をしてまいる所存でございます。改めて敬意と御礼を申し上げ、あいさつにかえさせていただきます。おめでとうございます。

▼木曽功・千葉科学大学学長

大学に危機管理学部を10年前に開設し、その関係で地域に危機管理ということで貢献できる大学でありたいと考えております。昨年4月に私は着任したんですが、熊本地震が発生して熊本城が倒壊。その時に危機管理学部を中心に支援物資を送ろうということで、協力企業を募りましたが、私自身、その時ガラスリソーシングさんを知らずに伊藤会長さんにお願いに伺ったところ、「とにかくこういう時だから使って欲しい」とマスク3000枚、缶詰500食、ようかん1000食、梅干し2250個という大量物資を寄付していただきました。銚子市からのお米などと合わせ、熊本の避難所の小学校に届けました。

熊本地震の被災地支援でガラスリソーシング㈱の底力を目の当たりにした木曽功・千葉科学大学学長

先日、私も蔵を見せていただきましたが、ものすごい量の備蓄物資を拝見しました。一つの企業が地域のためにこれだけやっているというのは、まず無いのでは？そういう意味で今回の協定締結に至る関係者のご努力、そして「地域にこういう方がおられる」ということは素晴らしいと私自身感激しております。

▼松岡明夫・銚子信用金庫理事長

本来、金融機関は黙ってこの方で控えているのが本当ですが、お話の機会をありがとうございます。元々この蔵建設時から関わらせていただきましたので、お呼びいただけたのか…と。

元々ガラスリソーシングさんはリサイクル事業を行なっており、人口減少という日本全体の現象の中、事業所はどうあるべきか？考えたところ、人のため・社会のため・地域のため役に立つ企業が残ると常々思っております。そういった意味では本業がリサイクルという地球に対して非常に貢献する事業であり、それに加えてこういった蔵の備蓄・設備、現実的に運用するための本日の協定締結。確実に歩まれているガラスリソーシングさん、なんとか我々金融機関もついていかなくてはと考えさせられる。ガラスリソーシングさんイコール『全身社会貢献企業』といっても過言ではありません。我々もお手伝いを引き続きさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

祝辞を述べる松岡明夫・銚子信用金庫理事長

本日は協定締結おめでとうございます。そして一市民として「ありがとうございます」と申し上げます。

【協定締結の目的】

災害発生時において、必要と判断した場合、ガラスリソーシング㈱が備蓄する防災備蓄物資や保有する重機の使用等に係る協力を要請することにより、各種支援活動等を迅速かつ円滑に行なうため協定を締結するもの。

【蔵の建設趣旨】

災害時には地域と共に歩む企業として、公的支援が届くまでの間、社員及びその家族並びに近隣地域の住民の皆さんに『蔵』を開放し、避難者の受け入れ、備蓄された食料・生活物資等を提供していくことも地域・社会貢献であると考えました。

大震災に限らず、台風等の風水害による災害が発生した際、倒壊した建物及び塀、倒木、土砂崩れ等で周辺道路が通行不能になった際、自治体だけの力では広範囲の被害に対し迅速な対応は不可能です。自治体と事前協力協定を結び、民間の豊富な資材や活力で道路上の障害物等の撤去作業に協力し、一刻も早く生活道路の通行確保が図れるよう今後、自治体と企業間で検討を進めていかなければならないと考えます。

以上のことを踏まえ、災害発生時に企業がどのような災害用備蓄品を備え、効率よく対象者に提供できるか。また、企業自らが災害に伴う周辺道路の障害物を速やかに撤去し、生活道路の通行をいかに確保していくか。行政機関等と事前に研究し、標準的なガイドラインを作成しておくことが必要です。今出来ることの一つとして弊社は災害用備蓄倉庫『蔵』を建設し、非常用食料、災害時に必要な生活物資等を災害備蓄品として備蓄しました。

蔵の建設を機会に建設趣旨に賛同した銚子を背負う次世代の若手企業家30名が集まり、防災・減災について勉強会を開き意見交換を始めました。今後、研鑽を積み上げた若手の意見が、各企業が災害時の災害備蓄を検討する際の参考にもなり、また企業からの求めに応じて適切に助言することができるよう、この施設を議論する場として活用されることを望んでおります。

▼災害用備蓄倉庫『蔵』の概要

▽場所　銚子市春日町81911（818－1）
▽建築構造　鉄骨造り2階
▽建築面積　129・46㎡（39・16坪）
▽延床面積　216㎡（65・34坪）
[内訳]
・1階　108㎡（32・67坪）備蓄倉庫
・2階　108㎡（32・67坪）多目的ホール
▽竣工年月日　平成28年2月
▽施設の用途　災害用備蓄品の備蓄及び災害時の一時避難場所
▽建物デザインについて　建物は日本古来の蔵をイメージし、色は上部を白と下部を黒の駒井壁を基調に建設